取り組み報告（事例紹介）

社会福祉法人慈光会
特別養護老人ホーム湯の郷苑

現状の把握と ICT 導入による業務効率の改善！

事業所概要

- 法人名-事業所名：社会福祉法人慈光会　特別養護老人ホーム湯の郷苑
- 地域：大田市
- 介護サービスの種類：介護老人福祉施設
- 職員数：34 人
- 併設サービス：小規模多機能型居宅介護、通所介護、居宅介護支援事業所
- ICT・介護ロボット導入実績　特養：介護記録ソフト（ワイズマン）、インカム
  小規模：眠りスキャン、介護記録ソフト（ほのぼの）

プロジェクト体制

役職		所属	プロジェクト上の役割
1	理事長		統括責任者
2	施設長		統括責任者
3	主任	特別養護老人ホーム　湯の郷苑	
4	サブリーダー	特別養護老人ホーム　湯の郷苑	
5	管理栄養士	特別養護老人ホーム　湯の郷苑	
6	相談員	特別養護老人ホーム　湯の郷苑	
7	理学療法士	特別養護老人ホーム　湯の郷苑	
8	事務員	特別養護老人ホーム　湯の郷苑	

■生産性向上委員会の有無…有り　　今後の体制【　今回のプロジェクト体制を継続　】

取り組みの目的

・今一度現状を把握し限りある人材と時間の中で専門的なアドバイスを受け、ICT 等の導入を進めより良いサービスの提供に努めていくため。

目的達成に向けたテーマと取り組み

	テーマ	取り組み内容
1	生産向上に向けて	・今後の専門化派遣スキームのイメージ ・介護現場における生産向上のとらえ方 ・生産向上の取り組みイメージ ・現状の把握
2	現場状況の把握について	・現場状況の把握 ・現場での改善点、問題点の洗い出し方 ・介護ロボット導入についての意見交換（実際に現場でどのような介護ロボットが必要か？）
3	問題点の洗い出しについて	・ブレーンストーミングの結果を元に問題点の洗い出しと今後の方向性について指導 ・現状のトランシーバーの問題点から、新しい機器のデモ機を活用してみることの提案 ・介護記録ソフトでのより良い活用方法の提案
4	人材育成について	・前回会議内容の進展状況の確認 ・現在使っている介護ソフトの使用方法の確認と使えていない機能の洗い出し ・人材育成についての考え方
5	ワイズマンの活用について	・生産性向上に向けた、ICT 活用について情報収集 ・ICT 活用における生産性向上ついて

（1）専門家による取り組み

時期（年月日）	取り組み内容	取り組みのポイント
令和６年９月11日	・今後の専門化派遣スキームのイメージ ・介護現場における生産向上のとらえ方 ・生産向上の取り組みイメージ ・現状の把握	現状を把握し次回からの業務洗い出しから始め、より良い業務循環でサービスの向上に努めていく
令和６年10月21日	・現場状況の把握 ・現場での改善点、問題点の洗い出し方 ・介護ロボット導入についての意見交換（実際に現場でどのような介護ロボットが必要か？）	現場のタイムスケジュールを講師の方に共有し、時間に追われる現状やタイムスタディによる課題を再認識することができた。 問題点が多くの職員に共有されているかを把握することで、優先的に解決すべき課題を明確にする必要性を確認した。

時期（年月日）	取り組み内容	取り組みのポイント
令和６年11月25日	・ブレーンストーミングの結果を元に問題点の洗い出しと今後の方向性について指導 ・現状のトランシーバーの問題点から、新しい機器のデモ機を活用してみることの提案 ・介護記録ソフトでのより良い活用方法の提案。	テクノロジー関連では、（インカム）デモ機を扱っている会社に問い合わせてみる。トランシーバーを用いて情報共有を行った際、使用前後で効果や変化があったかをまとめる。 ブレーンストーミングで明らかになった問題点を職員間で共有し、修正を進める。
令和６年１月27日	・前回会議内容の進展状況の確認 ・現在使っている介護ソフトの使用方法の確認と使えていない機能の洗い出し ・人材育成についての考え方	現在使用中の介護ソフト（ワイズマン）の進展はなく、多々納様に未活用機能の確認を依頼。次回の会議でこれらの機能を再活用する方針。 デモ機の貸し出しは、利用感確認を目的としていたが、貸し出し不可のため見送り。 人材育成では、目標設定の方法や考え方、今後の必要事項について重点的に話し合いを実施。
令和６年３月11日	・ワイズマン機能説明 ・最終報告書作成	タブレット・インカム・センサーに対しの説明を受け現場の課題にあった機械の導入が必要

（２）事業所の取り組みとその結果

時期（年月日）	取り組み内容
令和６年９月18日	現状把握（各職員の仕事内容の把握のため）各事業所職員から仕事の流れについてのタイムスケジュールを提出してもらった。
令和６年11月11日	業務の見直しをするため、ブレーンストーミングの実施

	効果検証（定量・定性）	取り組み前と後の変化
1	生産性向上の意識変化	普段の業務に追われ、なかなか現場の状況（問題点）を見つめ直す時間がなかったが、改めて今回の取り組みで意見を出し合うことができた。
2	業務工程の変化	中々全ての業務工程を改善することは出来ていないが、職員から（どのようにしたほうが良い）などの意見が出るようになった。
3	ワイズマン機能	メーカーの方との交流の機会が増え、現存の機能の活用法と新たな機能のアップデート等を知る機会になった。 ワイズマンは、あくまでも方法の一つである事を理解し、当事業所にあったテクノロジー選定が必要であると再認識できた。 また、現状では導入しているテクノロジーの機能の半分以下しか使用していないことを理解した。

継続課題

テーマ	内容
業務の見直し	・現在のマニュアルと現場での仕事の流れでずれている部分があるため、現在の業務にあったマニュアルの作成が必要。 ・職員の業務改善による時間の確保 （現場からの意見として、利用者様とかかわる時間を増やすことでサービス向上に繋げたい）
課題に応じた、テクノロジーの導入検討	・現場の課題に合わせた ICT の導入

モデル事業所の感想

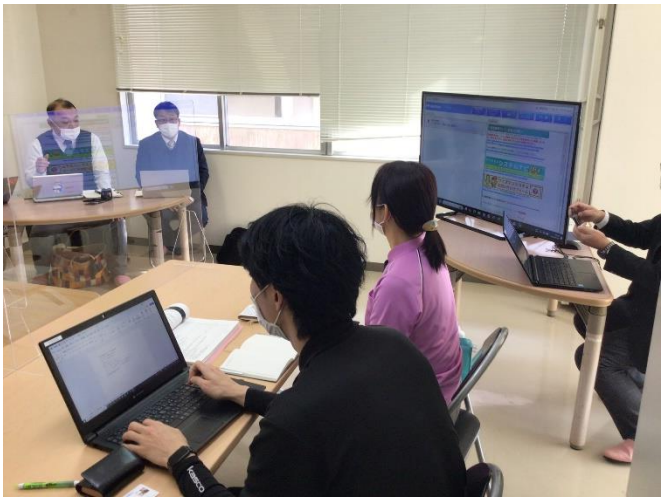
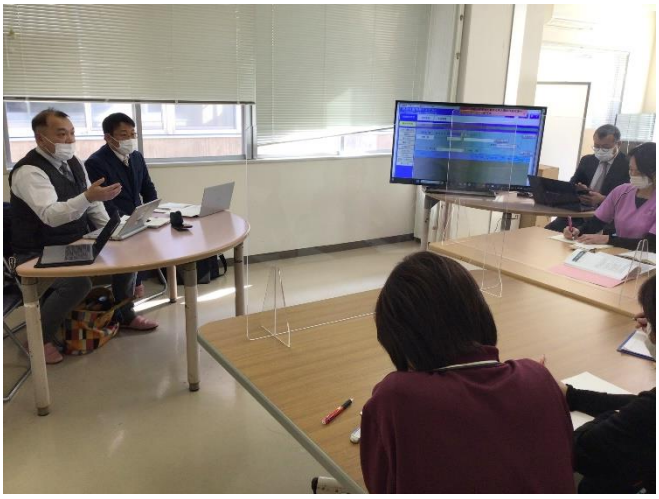
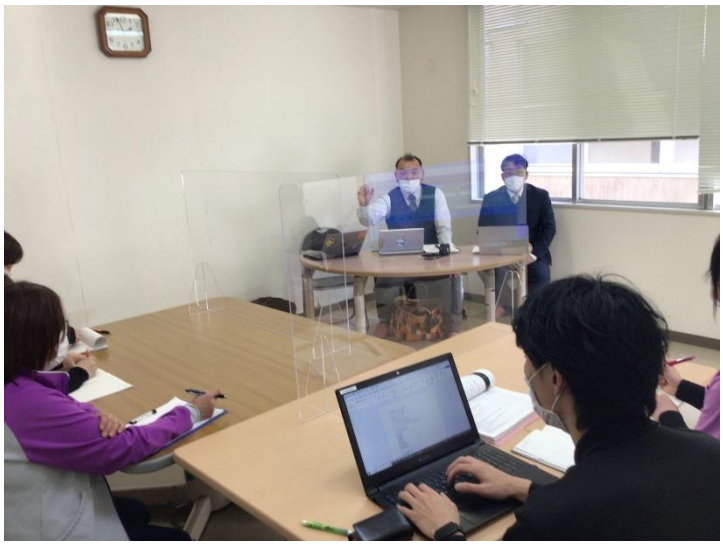
・５回に渡って専門家の方々から意見を頂きました。日々の業務に追われ中々現状を見つめ直すと言った時間は無かったが、様々な生産向上に繋がるプロセスやアプローチの方法を指導して頂き、見つめ直すという０の状況からスタートした為、テクノロジーの導入、数量や定量といった目で見える効果の変化には繋がらなかったが生産向上に向けた取り組みの意識や課題解決に向けた取り組み方を見出すことが出来た。

・今後の課題として、限りある時間と人材の中でどのように行ったら効率が良いか、現場にあったテクノロジーの導入が出来るか、また生み出した時間の中でその時間をどのように使っていくのかという課題に対して引き続き検討していく。

専門家のコメント

伴走支援専門家【社会福祉法人みずうみ　法人本部　室長補佐　武田和也】
【イズコムＩＴ経営相談所　代表　多々納健一】
【ASTER-A（アステラ）　代表　中澤博之】

専門家コメント：武田和也
湯の郷苑への支援として、以下の内容で支援を行った。
①生産性向上の考え方について研修
②課題の洗い出し（抽出）
③機器の選定
④生産性向上を含む人材育成
　上記①では、生産性向上の必要性の理解促進を念頭に取り組んだ。②については、事業所内でブレストを実施し、課題抽出に取り組んでいただいた。今回の振り返りとしては、課題抽出後の優先順位や課題に応じた生産性向上プランが示せず、短期間支援の難しさを痛感した。生産性向上は持続性が問われるので、継続的な取り組みを事業所が中心となり行っていただきたい。その際に重要なポイントとして、「介護における生産性向上の目的」と目的を達成する為の「利用者ファーストの為の職員ファースト」からブレる事が無いように取り組んでいただければと思います。今後、生産性向上がより推進されることを祈念いたします。

専門家コメント：多々納健一
　当方からは、主にテクノロジーの利用促進という視点での支援を予定していました。しかしながら、現状では日常の業務をこなすことに精一杯で、改善に向けた検討時間などを確保する隙間もないものと受け止めました。
　本事業では、上記にあるような改善に向けた道筋の入口を紹介しました。多忙の中、現場スタッフの方たちにもご参加いただき、“意見を出す”という作業を実体験して頂きました。
　本来であれば、課題解決に向けた対策の組み立てと、テクノロジーの選択により生産性向上の成果を出していただくことになりますが、現状で既に導入したツールがありましたので、先ずはそれを応用できないかと考えました。
　ヒヤリングと調査により、現状作業手順では「紙の後にソフトへの入力」となっておりましたので、テクノロジー利用の基本である「最初に、または早い段階でデータ化する」を実現するべく、その実現可能な方法を探索しました。その中で、実際にメーカー担当者との面談を企画しました。以前より顔なじみであり、今更感はあったと思いますが、お互いの認識ズレを感じていたため本事業内で実現させました。
　メーカー担当者からは、最新事例と最適利用事例を紹介して頂き、同所責任者の方達もご理解いただきました。
　テクノロジーの機能をフルに活用するためには、大小問わず業務の変更も生じると思いますが、“利用者様ファースト”の思想を持っていただきながら、今後の生産性向上に向けた活動に推進していただきたいと思います。

〇活動の様子